

令和6年度 第10回 第2部会（協働/子育て・教育/健康・福祉/防災・防犯/生活環境）会議概要

日 時	令和6年12月12日（木）午後1時30分～
会 場	中央区役所5階 501会議室
出席委員	米倉委員、豊島委員、高田委員、渡邊（俊）委員、高橋委員、桐生委員、小奈委員
欠席委員	高見委員
関係課	<総務課>中村係長
事務局	<地域課>荒井係長、水科主事

議 題	(1) 防災講演会の振り返り
会議内容 及び 決定事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問時間は取れなかったが、進行はスムーズにできた。 ・ 東京から講演を聴きに来ていた人がいた。 ・ 高見委員のアナウンスで会場の雰囲気が柔らかくなった。 ・ 佐藤会長が講演会へ繋がる良い導入となる挨拶をしてくださった。 ・ 災害の怖さや備えることの大切さを身に染みて感じた。 ・ もう少し長く講演の時間を設けたかった。
議 題	(2) 防災ワークショップの振り返り
会議内容 及び 決定事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感謝の集いもあったので、講演会とワークショップを同じ日に行うのは大変だった。 ・ 地域同士の話より、総務課の回答の方が多くなってしまった。 ・ 最初に、答えを出す場ではなく、意見交換の場である説明をしたことが良かった。 ・ テーマから外れた話も多々見られたが、タイムキーパーが時間を管理していたので、スケジュールに沿って進行できたことが良かった。 ・ 同じテーマでも人によって捉え方が違っていた。 ・ アドバイザーである総務課の回答がとても参考になった。 ・ 同じ中央区でも、各地域の状態を知る良い機会だった。 ・ ワークショップのまとめは、12月の自治協で各コミ協に配布することとした。
議 題	(3) 部会活動報告について
会議内容 及び 決定事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2/21の成果発表は、パワポを使用し米倉部会長が行うことに決定。 ・ パワポのベースを米倉部会長が作成し、次回の部会で意見を出し合うことになった。
次回日程	令和7年1月14日（火）午後1時30分～ 中央区役所5階 501会議室

テーマ	避難所運営のあり方 (A)
参加された コミ協名	沼垂小学校区コミュニティ協議会、関屋小学校区コミュニティ協議会、豊照地区コミュニティ協議会、鳥屋野校区コミュニティ協議会、万代地域コミュニティ協議会、山潟地区コミュニティ協議会、上所校区コミュニティ協議会

項目	課題・問題点 (ピンク付箋)	解決策 (青付箋)	【参考】マニュアルなど (中央区総務課より)
役割分担	・中心市街地にある避難所のため、地域住民だけでなく、様々な方が避難してくるが、役割分担をどのようにしたら良いか分からない。	<ul style="list-style-type: none"> ・【中央区総務課の回答】避難所ごとのマニュアルづくりを行っていく。 ・町内ごとに役割分担をしておく。 	【参考資料】中央区指定避難所運営・生活ルールチェックシート集
	・運営についての地域でのすり合わせが行われていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協単位で今年度中にすり合わせ会議を行う。 	
開錠	・たくさんの扉の鍵がひとつにまとまっており、どれがどこの鍵か分からなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の代表、教職員、市職員全員で開錠について再確認を行った。 ・【中央区総務課の回答】津波避難ビルの現地確認。 	
施設・設備	・旧小学校体育館が避難所となっており、水道やガスなどが通っていない。		指定避難所である旧豊照小学校体育館については電気・水道は使用できます。
	・備蓄品が1階にあるため、津波警報が出ていると上の階まで運ぶのが大変。	<ul style="list-style-type: none"> ・各階に備蓄品を置いている。 	
ペット	・ペット同伴の避難者がいてどう対応したら良いか分からなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下の手すりにリードを巻き、廊下での対応とした。 	

避難判断	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの住民がハザードマップを見たことがなく、津波がくる場所ではないのに避難していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 町内でハザードマップを作成し回覧した。 ごみステーションごとに避難場所と海拔の表示をしている。 防災訓練でハザードマップの講習会をしている。 班長会でハザードマップの学習を行った。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 一時避難場所と指定避難所の違いが分からない住民が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 行政が住民に理解してもらう取り組みを行う必要がある。 	
防災訓練	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練は毎年開催しているが参加者が固定している。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 各町内会長の防災に対する熱量が違いすぎる。 		

テーマ	避難所運営のあり方 (B)
参加された コミ協名	沼垂小学校区コミュニティ協議会、白山校区コミュニティ協議会、関屋小学校区コミュニティ協議会、湊地区コミュニティ協議会、豊照地区コミュニティ協議会、上山校区コミュニティ協議会、山潟地区コミュニティ協議会

項目	課題・問題点 (ピンク付箋)	解決策 (青付箋)	【参考】マニュアルなど (中央区総務課より)
避難所運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営委員会の組織が出来ていない。 ・マニュアルを作成しているが、中には現実には対応できないものもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【中央区総務課の回答】日頃より「運営・生活チェックシート」を作成するなどし、備える。 ・【中央区総務課の回答】問題点を洗い出しておき、自分たちの地域に合ったマニュアルを作成しておく。 ・初動時の班決めをし、地震発生直後の対応に備える。 	【参考資料】中央区指定避難所運営・生活ルールチェックシート集
避難施設	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人数に対して、避難施設の収容人数が足りていない。 		自宅、知人・親戚宅等や宿泊施設など分散避難をお願いしています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・電気・水道が通っていない施設が、指定避難所となっている。 		指定避難所である旧豊照小学校体育館については電気・水道は使用できます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校が避難所となっているが、トイレが遠い。お年寄り用に簡易トイレがほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【中央区総務課の回答】簡易トイレは、2つは配布済みのため、備品を確認してほしい。 ・【中央区総務課の回答】簡易トイレ用のビニール袋を配布済み。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所のカギを持っていることを公表した方が良いのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・公表された場合、有事に「カギを持っている〇〇さんが来なかった。」等の誹謗中傷やトラブルにつながることも。 ・【中央区総務課の回答】遠出するときなど、家族など他者に預けても良い。 	

<p>初動対応・避難判断</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一次避難所と指定避難所の違いが分からない方が多い。 ・避難所へ避難するか、自宅にとどまるか、判断がまちまち。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【中央区総務課の回答】今後、初動対応について1枚にまとめた簡易マニュアルを市で作成し、配布予定。 ・地域で避難訓練を開催していることは多いが、誤った知識を持っていたり、そもそもの地震対応を知らない住民も多いようなので、知識を深めるために、地震に対する勉強会を地域で開催してはどうか。 	
<p>高齢者（避難行動要支援者）の避難</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当の決め方は？ ・避難対応の担当者が決まっても、元旦で不在 	<ul style="list-style-type: none"> ・運べる力のある若い方に、あらかじめお願いしている。 ・高齢者の多い地域など、なり手が見つからないケースもある。若い人の場合、働いていて不在など、行けないこともあるため、必ずではなく、行けるときであれば、行ってもらおうこととしている。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所までの距離に比して、津波到達が早い地域だが、地域に歩行困難な独居老人が多い。対応するにも若い人が少ない地域のため、避難対応に困っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【中央区総務課の回答】避難行動要支援者避難支援マニュアルなどあり。 ・避難済みの場合は、ドアに黄色いハンカチを結ぶなど、地域であらかじめ目印を決めている。 	<p>【参考資料】避難行動要支援者避難支援マニュアル</p>
<p>地域コミュニケーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震においては共助が重要だが、お隣さんの顔も知らない子どもも多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お隣さんと顔見知りになるためにはどうしたら良いか？と小学生が考え、「まずはお隣さんと挨拶をしよう」と子どもから広げていった。 	
<p>広報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市で作成したハザードマップなど、良いツールがあるのに知られていない。 		<p>平時の備えとして、ハザードマップを使用した地域での勉強会や防災訓練での活用方法をお願いします。</p>

防災士	<ul style="list-style-type: none">・防災士が避難所にいると、的確に動いてくれ運営がスムーズになるが、防災士の高齢化・転勤等で人数の確保が難しい。・地域の防災士の人数を増やそうと市の助成申請するも予算不足で断られた。	<ul style="list-style-type: none">・【中央区総務課の回答】市で防災士の育成に半額補助している。（ただし、年度内予算の上限あり）	
-----	---	--	--

テーマ	地域ごとの災害リスク
参加された コミ協名	女池校区コミュニティ協議会、白山校区コミュニティ協議会、浜浦小学校区コミュニティ協議会、鏡淵小学校区コミュニティ協議会、有明台小学校区コミュニティ協議会、南万代地区コミュニティ協議会

項目	課題・問題点 (ピンク付箋)	解決策 (青付箋)	【参考】マニュアルなど (中央区総務課より)
防災訓練	防災訓練の参加者の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から協力を得ている。学校との合同の防災訓練を実施することにより、授業として1年生に必ず出てもらっている。 ・防災士の育成のため、市が積極的に支援する 	
避難	避難所の運営員や防災に詳しい人材の不足		
避難	避難所や避難場所が分からない人がいる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の取り組みとして、A4両面で要点を整理した資料を作成している ・避難所見学会の実施 ・ハザードマップを確認し、起こり得る被災状態を日頃から考えておく 	【参考資料】 中央区指定避難所運営・生活ルールチェックシート集
避難	防災マニュアルがややこしい		
避難	住宅と避難場所の位置によっては、津波が来る方向に逃げることになる人もいる	【中央区総務課の回答】 避難場所については日頃から二箇所考えておくと、より良い。	
修繕	<ul style="list-style-type: none"> ・被災した場合、家の修繕などに多くの手間と費用がかかる。 ・更地にすると税金がよりかかるため、解体が進まない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工務店を招き勉強会を開催し、知識の向上を図っている。 	

避難	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯が多い地区で、誰が住んでいるのが分からない。 ・避難時に顔と名前が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の町内会活動の活性化や、町内会長のリーダーシップが大切 	
避難	<ul style="list-style-type: none"> ・単身の高齢者世帯の避難や、避難所での対応 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会長のなり手がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・三世代対象の運動会など、若手に参加してもらうように工夫している ・事務のデジタル化などにより、負担の軽減を図っている 	
避難	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の鍵の管理、開錠担当者不在時の対応 		<p>【中央区総務課の回答】 オートロック導入の検討</p>

テーマ	これからの防災訓練
参加された コミ協名	栄地区コミュニティ協議会、浜浦小学校区コミュニティ協議会、鳥屋野校区コミュニティ協議会、有明台小学校区コミュニティ協議会、万代地域コミュニティ協議会、上所校区コミュニティ協議会、上山校区コミュニティ協議会

項目	課題・問題点 (ピンク付箋)	解決策 (青付箋)	【参考】マニュアルなど (中央区総務課より)
意識の低さ・参加者の少なさ	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識の欠如（特に高齢の方） ・「安全な町」という思い込み。（60年前も何もなかった場所だから、という安心感） ・参加者人数が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練への参加は個人の意志で。 ・命を守ることを一番に考えると、やるべきことが見えてくる。まずは、自助の行動を。 ・町内単位で防災訓練を行う ・避難に関して正しい知識を持って行動する（自分の地域は津波の危険性が高いのか？本当に避難する必要はあるのか？など） ・中、高校生など若い人に参加してもらおう。→学校に依頼（大学については、福祉学部がある大学や、私立大は協力傾向にあり？） 	
避難所環境	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの数が少ない ・トイレの形態が古く使いづらい ・汚物の処理問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の環境改善に向けて、国が自治体に対し、水洗式のトイレを備えた移動式のトイレなどの導入費用を補助する予定との情報あり。 	

<p>訓練のマンネリ化・目的が不明瞭</p>	<p>・訓練内容のマンネリ化（実際の避難所開設の経験がいかされていない）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【中央区総務課の回答】自主防の訓練実施計画書を基に訓練の内容を考えていくのはどうか。 ・訓練の目的を明らかにし、周知する。 ・地域でやるものなのか、個々でやるものなのか、目的をはっきりさせる。 ・「自助」について再確認する。 ・訓練を繰り返すことで知識がつく（マンネリでも良い）。 ・訓練はマンネリでも良い。内容として、①安否確認、②防災フェスタ、③避難所運営委員会の訓練を毎年実施する。 ・防災に関する講演会の実施&質疑応答を行う。 ・実用的、機能的な訓練とする。 	<p>【参考資料】自主防災組織活動助成金交付申請書に添付する「防災訓練実施計画書」に推奨している訓練が記載されていますので参考にしてください。</p>
<p>情報不足</p>	<p>・その地域の状態を早く連絡してほしい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・LINEの活用 ・役員同士の連絡網の整備 ・安否について自ら発信する「黄色のタオル」（在宅・生きていることの印として掲げる） ・要支援者の情報を町内役員で共有する ・キーボックスの設置。パスワードは誰が把握しているかを明確にしておく。→【中央区総務課の回答】キーボックスは、今年度中に全ての避難所に設置予定。120分以内の津波到達エリアには、遠隔操作可能なキーボックスを設置予定。 	